

# シンポジウム 温故知新：東北の気候と農業

**主催者から** 「サムサノナツハ オロオロアルキ」—あまりに有名な宮沢賢治の『雨ニモ負ケズ』の一節。太宰治は小説『津軽』のなかで、「科学の世の中とか何とか偉そうなことを言ったって、こんな凶作を防ぐ方法を百姓に教えてやることもできないなんてだらしがない」と書いています。70年あまりの時を経て、衛星を含めた気象観測はすすみ、天気予報の精度は向上していますが、未だに季節予報は難しいのが現状です。世界規模の気候変化、温暖化は疑う余地がないとされ、世界最速レベルのコンピューターで将来予測がされています。しかし、「凶作を防ぐ方法」を科学者は提示できていますでしょうか。今回は、賢治や太宰を理解し、農家と共に歩き、ヤマセを長年研究してこられたト蔵先生をお招きし、そのアプローチを学びたいと思います。災害にはコンピューターで予測できるものと、予測しにくいものがあり、予測しにくいものは過去の経験から推測し対策することが必要です。本シンポジウムではさらに、この20年の間にも変わりつつある気象状況について、また最近の気象のモニタリング手法について、当該分野の中堅若手が解説しつつ、一般の方々と共に気候変動への備えを考える時としたいと思います。

## 講演者プロフィール

ぼくらたけはる

### ト蔵 建治（弘前大学名誉教授）

東京農業大学卒、東京大学大学院農学系研究科博士課程修了、農学博士。弘前大学農学部助教授、同教授、弘前大学農学生命科学部教授、2004年同退官、現在弘前大学名誉教授。元日本農業気象学会東北支部長、1993年日本農業気象学会賞受賞。主な著書「ヤマセと冷害—東北稲作のあゆみ」（成山堂）、「冷害はなぜ繰り返すのか？」（農文協）。

かんのひろみつ

### 菅野 洋光（農研機構農業環境変動研究センター気候変動対応研究領域 主席研究員）

東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士。専門は気候学、農業気象学。農研機構東北農業研究センター、中央農業総合研究センターを経て、2016年4月より現職。1993年および2003年の大冷害は東北農業研究センターで遭遇し、東北地方のヤマセおよび冷害は身をもって体験している。ヤマセを現地観測からグローバルな気象データ解析まで幅広くとらえた研究を行っている。

やたがいあきよ

### 谷田貝 亜紀代（弘前大学大学院理工学研究科 気象学教室 准教授）

専門は気候学・気象学。筑波大学地球科学研究科修了、博士（理学）。宇宙開発事業団地球観測データ解析研究センター招聘研究員、総合地球環境学研究所助教、京都大学特任准教授などを経て、2016年4月より現職。アジアの水資源への温暖化影響評価のための日降水量グリッドデータ（APHRODITE）作成により2015年度日本水文・水資源学会国際賞受賞。

とよしまこういち

### 豊嶋 紘一（千葉大学環境リモートセンシング研究センター 特任研究員）

専門は衛星気候学。名古屋大学環境学研究科修了、博士（理学）。2015年4月より現職。降雨レーダ搭載衛星の観測データを用いて地球規模の降雨特性についての研究を主に進めてきた。近年は、ひまわり8号のデータ処理や可視化、また衛星を用いた日降水量グリッドデータ（APHRODITE）の精度向上にむけた研究にも携わっている。

おおくぼさゆり

### 大久保 さゆり（農研機構東北農業研究センター生産環境研究領域 主任研究員）

首都大学東京大学院都市環境科学研究科修了、博士（理学）。東京都環境科学研究所非常勤研究院、農研機構東北農業研究センター特別研究員などを経て、2016年4月より現職。専門は気候学、農業気象学。水稲の生育や病害発生と気象との関係、それらの長期変化についての研究を行うとともに、気象データによる農作物栽培のための情報システムの運用、改良を担当している。